

東京大学 加藤先生からのコメント

◆地域の特徴をいかした防災まちづくりを◆

最近のまちの変化を見ていると二極分化していて、新しい住宅はコミュニケーションが十分でない現状もある。まちの問題点についてはみなさんと共有できたと思います。地域の力を活かしながら、「安全でない」という現実をバネに、明るい未来を描いていけそうだとすべての班に共通して感じました。

◆皆が自然とやりたくなるような工夫が大切◆

防災は、マイナスをゼロにするというイメージが強く、使命感にかられてやるという印象があるかもしれません。しかし、それだと長続きしないので、皆が自然とやりたくなるような方法で進めていけると良いのではないかと思います。



どのまちにもいい面と悪い面があります。
悪い面を解消することができれば、
最高のまちにできる可能性があります。
それはこれからの皆さんの頑張り次第なので、
このワークショップをその第一歩として
みんなでいい成果が出るように楽しく頑張っていきましょう!!

南湖地区 防災都市づくりニュース

平成22年10月24日〔日〕 南湖地区防災都市づくりワークショップ開催

VOL. 2

南湖会館で第2回防災都市づくりワークショップを開催

10月7日に開催された第1回防災都市づくりワークショップに続き、第2回ワークショップが開催されました。今回は、前回のワークショップで寄せられた意見や疑問点をまとめ、それを参考にしたうえで南湖地域の防災都市づくりについてグループ討議を行いました。今回から西浜中学校の生徒のみなさんも参加され、幅広い議論が行われました。

第2回ワークショップ 話し合いの進め方

テーマ：若い世代に受け継ぐ、防災都市づくりに向けて、子どもでできること、大人ができること、協力して取り組むことについて話し合う！

第1回ワークショップで出た意見や疑問点をふまえて、第2回ワークショップでは、課題解決に向けたアイデアについて、**3つのステップ**で話し合いました。

○第1回ワークショップで出た主な意見・疑問点

- 狭隘道路が多い
- 地震で漏電やガス漏れが起きたときの影響は？
- 自助を進める上での共助の役割
- 若い世代と連携し、守ってもらう環境を作っていくためには？

○第2回ワークショップの話し合いの流れ

- ★ステップ1★ 南湖地区の防災上の課題を話し合う。
- ↓
- ★ステップ2★ 南湖地区の強みを考えながら、防災上の課題解決に向けてのアイデア（短期・長期）を話し合う。
- ↓
- ★ステップ3★ 将来のまちの姿について話しあう

次回のワークショップでは、今回出た意見をより具体的に考えていきます!!

グループ討議 & 発表！

◆話し合いのヒント◆ 東京大学 加藤先生

- まちが災害に強いかどうかは、まちの壊れやすさと地域の対応力によって決まる。まちを安全にしていくためには、「**壊れやすさを小さくする**」「**地域の対応力を高める**」という2つの視点がある。
- 明日に備えるための対策と、**長期的に目指す対策を同時に考えていく**必要がある。

A 班

●地域の状況・課題

- ・一人暮らしのお年寄り、若い母親と小さい子供が多い
- ・アパートなどが増えていて、近所付き合いなどの地域のコミュニティが薄い

●対策

- ・日常の防災訓練なども町内の細かい地区単位で行う
- ・寺や魚市場、地元企業などとの協力体制を作り、避難場所として集まれる場所をもっと細かく増やしていく
- ・町内で医療の知識がある人を事前にリストアップしておき、緊急時に応急処置ができる体制を整える

⇒南湖は歴史や伝統・文化があるまち。地域同士の絆を活かした災害に強いまちをつくりたい！

B 班

●地域の状況・課題

- ・コミュニティが少なく近所の人との会話がな
- ・避難場所が少なく
最寄りの避難場所まで遠い地域もある。
- ・全体として防災意識が低い

●対策

- ・井戸水を活用する
(災害時にすぐ使えるように場所などを把握しておく)
- ・阪神大震災のビデオなどを見たり、水や食料を確保したり、避難訓練などを頻繁に行って意識を高める
- ・本音で話せる環境をつくる

⇒地域住民の意識変化が自助、共助のために必要

C 班

●地域の状況・課題

- ・道路が狭い
- ・古い家が多い
- ・避難所が南部に集中している
- ・高齢者の一人暮らしが多い

●対策

- ・神社、自治会館が数多くあるので、それらを一時的な避難場所にできないか
- ・地域の避難ルールを明確に作る
(わかりやすい防災マップを各自治会に即して作れたら良いのではないかな)

⇒各世代で協力してみんなをまもるまちをつくりたい



女性班の発表

D 班

●地域の状況・課題

- ・空き地や公園がとても少ない
- ・建物が古い
- ・住民同士のコミュニケーションは、結びつきが強い地域とそうでない地域の差が激しい

●対策

- ・普段参加しない人が興味を持って参加できる効果的なイベントを増やし、地域の団結力を強くする
- ・避難所がとても少ないので、近隣地区の避難所にも避難できるよう他エリアとのコミュニケーションも必要。近くの広い駐車場を一時避難所にする方法もある

⇒防災教育をしっかりと行い、少数精鋭でお年寄りの方々をしっかりとささえられるまちづくりをしよう

E 班

●地域の状況・課題

- ・昔からある古い家が多く火災に遭いやすいのでは。
- ・新しい住宅街ができて新しい住民が増え、
近所付き合いが薄くなってきている

●対策

- ・これから建てる家は間隔を開けるか耐火建材を使用。
- ・火災が発生してもスムーズに消火できるように、
消火器具をまちにもっと多く設置する
- ・日頃から近所の人たちと話したり、地区のイベントに積極的に参加したりして交流を持つことが必要

⇒日頃から災害に向けていつでも心構えをしまちを安全に変えていくことが大切

F 班

●地域の状況・課題

- ・古い建物や木造の建物、ブロック塀が多い
- ・道路が狭い、曲がりくねっている

●対策

- ・様々なケースを想定して避難ルートを考えておき、
近所の人と助け合う援助関係を持つ
- ・すぐに逃げられるように、普段から防災袋を用意しておく
- ・普段から近所のお年寄りに声をかけ、誰がどの家の人を助けるかを決めて、地域全体で「お年寄りマップ」を作り、
それをもとに共助体制を作る
- ・地区整理を行い一軒一軒の家の間を保てるようにする、
古い住宅などは補修して倒れないようにする

⇒いざという時に助け合えるまちづくりをしよう

